

平成 22・23 年度

川崎市立図書館協議会研究活動報告書

—新中原図書館の整備について—

平成 24 年(2012 年)5 月

川 崎 市 立 図 書 館 協 議 会

平成 24 年 5 月 31 日

川崎市立図書館長様

川崎市立図書館協議会
会 長 大 串 夏 身
副会長 長 島 保

平成 22・23 年度川崎市立図書館協議会研究活動報告について

川崎市立図書館協議会委員は、川崎市立図書館の現状及び新中原図書館の整備について研究協議を重ねてまいりましたが、ここに研究の成果がまとまりましたのでご報告いたします。

図書館を取りまく環境は大きく変わりつつあります。コンピュータと情報通信ネットワークが結びついた情報基盤の整備が進んで、本格的な高度情報社会が姿をあらわしつつあります。資料・知識と情報をよりどころにしてさまざまなサービスを提供している図書館は、こうした社会の変化の影響を強く受ける施設であります。また、ICT 技術の進歩もめざましいものがあり、図書館の仕事の効率化や新たなサービスの提供に役立てることが期待されるようになっていきます。さらに読書の重要性に対する再認識が国際的に高まり、諸外国では公共図書館の充実がはかられ、公共図書館を中心とした読書の推進への取り組みも進みつつあります。

こうした環境変化の激しいときにあって川崎市は、新しい図書館建設をすすめています。本協議会はこうした川崎市の取り組みに敬意を表するとともに、新しい図書館をよりよい図書館にするために、本協議会としても、新図書館に対する理解を深め協議を重ね、研究活動をおこなってきたところです。本報告は、こうした取り組みをとりまとめたものです。本報告書が今後の図書館運営に生かされることを期待いたします。

委員構成（*は編集委員）

*大串夏身（会長）、*長島保（副会長）、栗田博美（平成 23 年 5 月 31 日まで）、石堂真理子（平成 23 年 6 月 1 日から）、高野茂、堀井岳洲、川崎眞喜子、渡辺 功、*渡邊由紀江、津脇梅子、*荻原幸子

～平成 22・23 年度川崎市立図書館協議会研究活動報告書～
－ 新中原図書館の整備について－

目 次

1	はじめに	
	(1) 今期の研究活動の基本的な考え方	1
2	川崎市立図書館の概要と新中原図書館の整備について	
	(1) 川崎市のなりたちと図書館に求められるもの	2
	(2) 川崎市立図書館の現状と新中原図書館の整備に至る経過	2
	(3) 新中原図書館の整備コンセプト	4
3	新中原図書館についての市民の理解を深めるために	
	(1) 市民の理解を深めるために	7
	(2) 川崎市立図書館協議会委員作成による Q & A	7
4	おわりに	12
5	参考資料	
	(1) 川崎市立図書館マップ	13
	(2) 川崎市立図書館の施設一覧	14
	(3) 新中原図書館パブリックコメント資料：部分（平成 22 年 2 月-3 月実施）	16
	[巻末資料]	
	(1) 平成 22・23 年度審議経過	22
	(2) 平成 22・23 年度川崎市立図書館協議会委員名簿	23

1 はじめに

(1) 今期の研究活動の基本的な考え方

これまでの川崎市立図書館協議会の過去6任期においては、主に図書館からの諮問を受けて答申をまとめる研究スタイルをとってきたが、今任期（平成22-23年度）については、新中原図書館の整備が進み、川崎市立図書館全体が大きく変わっていく過渡期にあること、また、前任期から多くの委員が交替となり、新たに着任した委員がほとんどであったことから、今任期の研究は、まず図書館からの説明と実施視察を通じて、委員が学び、川崎市立図書館の概要や現状、課題の把握に努めるところから活動が開始された。

そのような活動から出発し、研究討議を重ねるうちに今任期委員の研究論議の中心となっていくのは、平成24年度末の開館を目指して建設が進められている新中原図書館の整備についてであった。昭和35年を最後に、川崎市には中央図書館と称する図書館がなく、中原図書館はまとめ館として発展してはきたものの、機能的にも収容能力的にも限界が近づきつつある状態である。そのような流れの中で、中央図書館的機能を備えた図書館として建設が進められている新中原図書館がどのような図書館となるのか、またそれによって川崎市立図書館がどう発展していくのかという点を中心に研究が進められた。

また、川崎の中央図書館的な図書館ということは、140万人を超える大都市川崎市の図書館の顔でもあり、川崎市の歴史や市民の特性を反映した、新たな図書館でなければならないはずである。

しかしながら、武蔵小杉駅前の再開発地区に建設中の新中原図書館は、実物が存在しないため、具体的なイメージが見えにくく、どのような使い心地になるのかが掴みにくい図書館である。それは、委員同様、新中原図書館を利用する市民にとっても実態が分かりにくいということでもある。

そこで、我々の知り得た新中原図書館の概要について、読んで分かりやすいように整理して市民に広く周知し、市民からの意見を開館後の運営に少しでも反映させるためのきっかけとなるよう、本報告書はまとめられた。

今回の研究は、新中原図書館開館後の市立図書館の発展を願う研究活動の、いわば中間まとめというべきものである。本報告書の第4章で総括したとおり、多くの課題は次任期に継続し、さらに検討を加えていくことになるであろう。

2 川崎市立図書館の概要と新中原図書館の整備について

(1) 川崎市のなりたちと図書館に求められるもの

川崎市は、水辺に育まれた都市である。江戸海(東京湾)に注ぐ多摩川が、南北に細長い市域を形成し、そこに多彩な産業や暮らしぶりを生み出し、個性ある景観や町並み、文化を育んだ。二ヶ領用水が銘柄・稲毛米の穀倉地帯を広げ、東海道川崎宿や厄除け川崎大師が、町並みの殷賑を促し、やがて近代企業の進出を招いて、京浜工業地帯の中核を担うに至った。

その後、大戦の惨禍から立ち直ったものの、深刻な公害。その負の成長を乗り越えて、全国第8位の政令指定都市、人口143万余が生活する巨大都市となった。実はこの町は、全国各地からの移住者たちで増え続けてきた。それに加えて、市外からも多数の通勤者。さらに、在日韓国・朝鮮人ほか外国人居住者も増えている。このような多様な市民・住民たちの、さまざまなニーズに、きめ細かく対応することが求められている。ましてや、ターミナル駅直結の、きわめて交通至便な立地から推し量れば、周辺交通機関を利用する来館者の殺到にも配慮が必要だろう。

川崎市政の『川崎市新総合計画～川崎再生フロンティアプラン～』では、「安全で快適に暮らすまちづくり」、「幸せな暮らしを共に支えるまちづくり」を基本目標に据えている。主権者である市民・住民が行政と手を取り合い、主体的にまちづくりを進められるよう、さまざまな情報が提供されることが肝要である。また、未来を担う子どもたちの健やかな発達をめざし、『かわさき教育プラン』の実現に努めることも要請される。

注1 『川崎市新総合計画』 <http://www.city.kawasaki.jp/20/20kityo/home/sougoukeikaku/index.html>

注2 『かわさき教育プラン』 <http://www.city.kawasaki.jp/88/88kikaku/home/plan/plan3.htm>

(2) 川崎市立図書館の現状と新中原図書館の整備に至る経過

図書館の利用目的がますます多様になってきている。市民は、知り、学び、問題を解決し、他方、憩い、楽しみ、交流するなど、多種多様な目的で図書館を使っている。利用も著しく増えている。たとえば、貸出人数、貸出冊数、予約冊数において、本市図書館全体の平成12年度に対する22年度の倍率及び22年度の実数は次のとおりとなる。貸出人数は約210%で2,318,465人、貸出冊数は約153%で6,427,704冊、予約は約704%で1,652,267冊。同じく中原図書館での増加は全館を上回る状況で、それぞれ231%で396,508人、198%で

1,040,365冊、予約にいたっては975%で335,128冊となっている。また、16年度導入の市立図書館ホームページ利用も16年度に対し22年度は何と614%、6,612,576件（トップページ）にも昇っている。

このような本市図書館利用の多様化と拡大は、ICT（Information and Communication Technology：情報・通信技術）化・自動化推進による利用者セルフサービスの推進という施策と相互に関係しあってきた。本市では平成2年のコンピュータシステムのオンライン化以来、各館単独のサービスから全館ネットワークとしてのサービスに転換し、サービス・業務の迅速化と拡充を図ってきた。

平成15年1月からはインターネット・ホームページによる資料検索、資料利用状況確認、予約、貸出延長等を開始したところ、1年もしないうちに貸出（返却）は1.7倍、予約は3.3倍と一挙に膨れ上がった。さらに、同年7月からの通年開館、半数勤務・時間差勤務の導入もあいまって、職員は貸出・返却、予約処理、巡回車業務等のルーチンワークに忙殺され、企画、調べごと、地域資料、展示、普及、学校・大学等との連携などは手薄にならざるを得なくなった。

9月には「川崎市立図書館運営検討委員会」（以下、「検討委員会」という。）を立ち上げ、「地域図書館の位置づけ」「まとめ館機能と中原図書館」からなる運営の基本を提示し、専門性の必要度（業務の難易）の観点から「図書館業務における市職員直営業務」のあり方を明示した。この結果を受け、平成16年度から返却カウンター業務、配架・書架整理、予約・巡回図書の搬送関連、書庫出納を委託業務とし、直営を基本としての一部委託運営体制に転換し、現在に至っている。18年度からは貸出カウンター業務も追加委託している。

また、15年度の検討委員会は、①幅広い学習・読書要求に応える資料選択、②レファレンスと情報作成・提供の強化、③学校図書館支援など地域学習活動支援の強化、④図書館へのアクセスが困難な市民への支援、⑤図書館への市民の参加協力を今後の重点課題とし、16年度も検討委員会を継続し最終報告をまとめた。

その後、この検討委員会報告、行財政改革で凍結となった『川崎市中央図書館基本計画』（川崎市中央図書館基本計画策定委員会、平成15年3月報告）及び平成10～17年度にわたる川崎市立図書館協議会（以下、「協議会」という。）の研究協議などを集大成する形で、協議会の答申『川崎市立図書館の運営理念と活動目標について』が20年5月に報告され、これを実現することが本市図書

館の使命となった。

他方、本市では、平成12年の「子ども読書年」を契機に、同年、子どもの読書活動が活発に行われることを願って「読書のまち・かわさき」事業を立ち上げ、16年の第1次「子ども読書活動推進計画」策定、23年の第2次同計画策定を行い、今日まで推進してきた。この間、国では、平成13年から22年にかけて「子どもの読書活動の推進に関する法律」、「文字・活字文化振興法」、国会における「国民読書年に関する決議」、「国民読書年」制定と取組が続いている。

本市では、ここ5年ほど協議会答申『川崎市立図書館の運営理念と活動目標について』と連携した「読書のまち・かわさき」の取組を目指し、読書と授業の支援の2本柱のもと、学校・学校図書館と公共（市立）図書館の連携拡充に努めてきた。第2次「子ども読書活動推進計画」では「市民の読書への要望や関心に応えるために、川崎市立図書館全体として質・量ともに充実したサービスの実施が望まれています。そのために中原図書館を中央図書館的な機能をもつ施設として再整備します。」と明記している。中原図書館の再整備は『川崎市新総合計画』『かわさき教育プラン』に位置づけられ、次の5つの拠点とされている。

- 1 あらゆる世代の人々が生涯を通じて学び、活動し、成長する拠点。
- 2 「読書のまち・かわさき」の新たな展開の拠点。
- 3 武蔵小杉駅再開発を中心とする発展する中原区の拠点
- 4 市民の仕事や生活、地域の課題解決に役立つ資料・情報の拠点。
- 5 中央図書館的機能となる川崎市立図書館の中軸・拠点。

（3）新中原図書館の整備コンセプト

川崎市立図書館はこれまで中原図書館を事務上のまとめ館とし、7区に地区館が各1館、分館が全市で5館、閲覧所が1館、自動車文庫1台でサービスを展開してきた。川崎市立図書館全体として質・量ともに一層充実したサービス実施が望まれている。新中原図書館に関しては上記の5つの拠点としての役割に加えて市立図書館全体に関する企画・調整、広報・広聴、コンピュータシステム、図書の物流システム、資料収集、学校連携、大学・諸機関連携、eメールレファレンス等についての統括的な機能の強化が期待されている。

また、新中原図書館については、前述の『川崎市新総合計画』（平成17年3

月度策定)の中で武蔵小杉駅周辺地区に整備されることとされている。武蔵小杉駅はJR南武線・横須賀線／湘南新宿ライン、東急東横線・目黒線等の路線が乗り入れる、首都圏でも有数な交通至便の駅であり、周辺には大型の商業施設や集合住宅も密集するため、武蔵小杉駅付近は乗降客はじめ多くの市民が利用する一大拠点となると予測される。

従って、武蔵小杉駅周辺に整備される新中原図書館においては、その立地を最大限に活かすとともに、利用の急増に対応できる施設・機能が求められる。

特にこの10年ほどの間、多くの市民が川崎市立図書館を利用し、さらに量ばかりでなく多様で質の高いサービスを求めるようになっており、新中原図書館への市民の期待は大きい。情報、知識、読書、学習などについて、年齢や経済的条件を問わず、市民が主体的に取り組めるようにすることは、社会インフラ整備の中でもとりわけ重要な事項であると考えられる。

幼い子どもがいる家族の図書館利用や、家庭にいる主婦や退職し比較的に自由な時間を沢山持つ方々の図書館利用は多い。また昼間は仕事で忙しい働き盛りの方々への環境づくりも問われている。さらにユニバーサルデザインに象徴される、障がいを持つ方々や高齢の方々、また、グローバル化や多文化社会への動向において、日本人市民の国際感覚の養成、また、外国人市民の地域での生活を支援する新たな取組が求められている。

一方、書籍・雑誌の電子化、音楽ソースの配信化など、資料の電子化が著しい分野での資料の整備を図り、空間と時間の制約を超える電子的環境の構築を基盤とするサービスを積極的に進める必要がある。このことにより、新たな全市的サービスの進展が可能となり、中央図書館的機能の一つの具体化を図ることができる。また、電子化は図書館のICT化と結びついて、長期的には図書館の管理運営に効率性と利便性もたらすことができる。

市民にとっての効率性と利便性という視点でみると、図書館を市民と行政の協働によるシステムとして運営する重要性が浮かび上がってくる。市民が知り学び楽しむために、関係する人々、機関、団体、組織と連携、協力する取り組みからもたらされる果実には、利用者である市民、団体等にとって、かつ連携に関わる人々や機関等、図書館、それぞれにとって、図書館単独では味わうことのできない滋味豊かなものが期待できるであろう。

以上のような市民、地域、自治体そして図書館内外における構成条件の変動及び新中原図書館の交通至便な立地上の条件を最大限発揮することを勘案し、新中原図書館のパブリックコメントでは、下記のような6つの整備コンセプト（巻末17ページ）が掲げられている。

①好アクセスのビジネスパーソンのオアシス

新中原図書館は再開発で発展の目覚ましい武蔵小杉駅前の複合ビル内に入居するため、首都圏で有数のアクセスの良い図書館になると予想される。そのターミナル駅のアクセスの良さを最大限活用し、通勤・通学帰りの知的リフレッシュサービス、開館時間の延長、ビジネスパーソン・ビジネス支援の充実を図っていく。

②市民活動・生涯学習活動の支援

市民活動・生涯学習活動の継続的發展を目指し、資料・情報をつうじた地域市民活動の拡充、生涯をつうじて学び成長する場としての整備を図っていく。

③誰もが使いやすい図書館

あらゆる世代、多様なライフスタイルへの対応が求められる今日、子育て支援からシニア活動までの場、親子で楽しめる場、障害者、外国人、だれでも使いやすく、快適な場の整備を図っていく。

④ハイブリッド図書館

従来からの本や、電子データベース等とインターネットによる高度な情報提供を充実させる。紙媒体の資料に留まらず、電子媒体資料も充実したハイブリッド図書館、図書館から離れた市民もアクセスフリーで利用できる、インターネット時代としての時間と空間の制約をこえた全市・24時間サービスの展開を図っていく。

⑤市民・地域・学校・大学・企業との協働

学校図書館との連携、読書ボランティア推進など、「読書のまち・かわさき」の拠点づくり、「読書のまち・かわさき」事業の積極的な推進を図っていく。

⑥効率的で利便性の高い図書館

新中原図書館では、これまでの図書館に比べ、質量両面での飛躍的な利用拡大が見込まれることから、自動書庫・自動貸出機等IT化の推進による効率化・省力化・省スペース化の推進と市民サービスの向上を図っていく。

3 新中原図書館についての市民の理解を深めるために

(1) 市民の理解を深めるために

武蔵小杉駅前に作られつつある新図書館は、まさに現在建設中のものである。この図書館は、川崎市の図書館のなかではもっとも広い床面積をもつ図書館であり、各種サービスや機能の充実がはかられ、特にICT技術を活用して一層の効率的運営に取り組み、新しいサービスの創造も可能とすべく努力しているとのことである。こうした取り組みは本協議会としても高く評価するものであり、よりよい図書館が実現するよう期待するところである。また、川崎市民の理解をふかめ、意見・アイデア等を広くつのり、よりよい図書館づくりがすすめられることをも期待している。

本協議会としては、まずもって現在の取り組みを市民へ広報し、市民との共通の認識を持つ必要があると思っている。その意味で、本協議会としても、基本的な事柄から確認し、よりよい図書館へ向けた意見を述べるべく取り組んできたところである。

そこで、まず、基本的な事柄から分かりやすく内容をとりまとめ、質問と回答の形式にまとめてみた。これらは、市民とも共通の認識とすべき事柄でもあると思われ、こうしたものを図書館の広報誌やホームページに掲載して、市民の理解を一層深めるとともに、今後、市民から寄せられるであろう質問等に回答しながら開館準備をすすめるべきかと考えている。また、そうしたことを行うことを提案するものである。

(2) 川崎市立図書館協議会委員作成によるQ & A

Q 1	新中原図書館はどこに作られるのですか。
A 1	武蔵小杉駅南口地区西街区と称される地域で、現在の南武線・横須賀線の北改札（南武線口）・東横線のJR連絡口からともに徒歩1分の駅前ビル（商業テナント、民間分譲集合住宅との複合ビル）の5階6階の2フロアに作られます。東急東横線の上に新たな駅ビルが建設され、駅ビルの4階に新しい改札口が作られ、新中原図書館の入るビルと東横線の駅ビルは直結されるほか、2階フロアもJR武蔵小杉駅とつながるようになります。改札口を出て、廊下を抜けて、エスカレーターを昇れば、雨の日も傘をささずにそのまま新中原図書館まで行くことができます。

Q 2	新中原図書館の広さはどのくらいですか。今の図書館よりどのくらい広くなるのですか。
A 2	<p>新中原図書館は高層ビルの5階6階部分に作られ、2フロアになります。事務スペースや階段、バックヤード部分等も含め、延床面積は約4,500㎡になります。現在の中原図書館は、本館の地下から3階と別館の1階から3階まで合わせて約2,400㎡ですので、床面積は約1.88倍になります。</p> <p>現在、利用者の皆さまが図書を直接ご覧いただけるフロアは手狭になっていますが、新中原図書館では、5階、6階とも現状に比べ、かなり広いスペースができるほか、座席数も増えることとなります。</p>

※ 新中原図書館の概要については参考資料（巻末16～21ページ）もごらんください。

Q 3	新中原図書館の所蔵冊数はどのくらいになるのですか。今の中原図書館に比べてどのくらい本が増えるのですか。
A 3	<p>おおよそ45万冊の図書や新聞、雑誌、CDが収容できる予定です。現在の中原図書館の蔵書可能冊数は約32万5千冊ですので、約12万冊以上増えることとなります。</p>

Q 4	開館時間はどうなるのですか？
A 4	<p>駅前の便利な場所にできますので、夜、仕事帰りの方も利用できるような時間帯までの開館を目指していきたいと考えています。</p>

Q 5	インターネットを活用したサービスが提供されると聞いていますが、どのようなサービスが提供されるのでしょうか。また、それが市民にどのように提供されるのでしょうか。
A 5	<p>これまでも図書館ホームページ内で資料の検索や予約受付・取消、貸出延長、事前登録などを行ってきたのに加え、ホームページを介した電子書籍の閲覧や音楽配信サービスも考えています。ただし、開館時からではなく、開館後に導入を目指すサービスもあります。</p>

Q 6	5階の団体貸出コーナーはどのようなスペースですか？
A 6	<p>川崎市立図書館では、登録団体が、①地域などで閲覧や貸出をおこないたいとき、②各団体での学習や企画に本を使いたいとき、③図書館と協力して事業をおこなうとき、冊数や期間を定めて、本を貸し出しています。</p> <p>平成22年度には、保育園・幼稚園、小・中・高・特別支援学校、こども文化センター、学童保育、児童相談所、不登校児童・生徒支援施設、おはなし・読み聞かせボランティア、高齢者や障害者等の福祉関係施設、生協、NPOなど、全市あわせて192団体にお借りいただきました。</p> <p>団体貸出コーナーでは、中原区内登録団体への上記①の貸出に加え、本市で初めてとなる②③の専用図書セットを用意し、中原区以外の団体にも貸し出します。乳幼児から高齢者までの読書や学習を支援する全市の団体・グループ活動に広く役立つことを願っています。</p>

Q 7

新中原図書館にさまざまな情報・通信技術（ICT）が使われると聞いていますが、どのようなものが使われるのでしょうか。

現在、川崎市立図書館のすべての蔵書に「ICタグ」を貼り進めていますが、「ICタグ」は最近のお店の商品にもよく取り付けられているものです。図書館の「ICタグ」には本のデータが入っており、機械で読み取ることで、いろいろなことができるようになります。新中原図書館では次のような機器を入れて、「ICタグ」を使った新しいサービスをしていきたいと考えています。

① 自動書庫…ロボット化された書庫です。今は職員が書庫まで取りに行っていますが、新中原図書館では、書庫の本を頼むと、倉庫の中からベルトコンベアでカウンターの近くまで自動的に運ばれてきます。自動書庫には人が入る必要がないので、狭いスペースにたくさんの本を収納することができ、人が探すよりも早く出し入れをすることができます。

② 自動貸出機…セルフサービスで本を借りる手続きができる機械です。今はカウンターで、1冊1冊貸し出し処理をするので、貸し出し窓口が混雑します。新中原図書館では自動貸出機を5階・6階のあちこちに配置します。利用者が自分のカードをかざして、自動貸出機の上に本を何冊かまとめて置いて、簡単な操作をするだけで貸し出しの手続きが済みますので、手続きの時間が短縮されます。またセルフサービスですので、自分の借りたい本を他の人に知られることがありません。



イメージ

③ 自動予約棚…予約コーナーに準備された予約本をセルフサービスで受け取ることができます。5階の玄関の正面あたりにコーナーがあり、コーナーの入口でカードをかざすと、自分の予約した本が何番目のどの棚に用意されているか画面に表示されます。自分でその本をとって、備え付けの自動貸出機で手続きすることができます。並んでカウンターで受け取るのに比べ、手続きの時間が短縮されます。また、セルフサービスですので、自分の借りたい本を他の人に知られることがありません。



イメージ

ただし、自動予約棚に置けない大きさの本やCDなどは今までどおり貸し出しカウンターでお渡しします。

④ 無断持ち出し防止装置（BDS装置）…レンタルビデオショップの出入口などに置いてあるゲートと同様のものです。貸し出し手続きをしないで本を図書館の外に持ち出そうとするとブザーが鳴ります。市民の財産である資料を守るのに役立ちます。



イメージ

A 7

Q 8	新しい情報通信機器を使ったサービスは大変良いと思いますが、高齢者や初めての利用者などうまく使いこなせないことも考えられます。そうした利用者への対応策は考えられていますか。
A 8	たとえば、画面を用いた機器の場合でしたら、その画面を見れば操作方法が分かるような簡単な画面にしていくなど、できるかぎりわかりやすくしたいと考えています。また、操作の案内チラシを近くに置いたり、使い方の講習会などを開いたりしていく予定です。開館後しばらくは、気軽に操作方法を聞くことができるスタッフも配置するなど、機器操作が苦手な方々への、人による支援サービスをおこなっていきたいと考えています。

Q 9	新しい技術・サービスや、図書館全般の利用方法などについて、職員の研修や養成はどのようにすすめるのでしょうか。
A 9	開館するまでに研修を実施するなどして、職員全員が担当するサービスや業務等に習熟し、利用者の皆さまにご満足いただけるようにしていきたいと考えています。

Q 10	子どもや10代の若者たちへのサービスは今より充実するのでしょうか。
A 10	<p>新中原図書館の児童室は現在よりも広くなり、テーブルやイスも増えます。現在の中原図書館では、2階の会議室を転用しておはなし会を開いていますが、新中原図書館では児童用開架コーナーで開けるようになります。おはなし会を開いてないときは、親子でくつろいで本を見ることが出来ます。また、これまではなかった授乳室を設けますので、乳児のいる親子連れの皆さまもより安心して便利になります。また、使いやすい子ども専用トイレも付設します。</p> <p>10代の皆さまについては、その世代の方々が興味をもつような本を特に集めたスペースも用意する予定です。</p>

Q 11	川崎として特色ある図書館サービスとしてどのようなサービスが考えられているのでしょうか。
A 11	<p>新中原図書館は、とても便利なところに作られますので、川崎市の多彩な面を広く知っていただける場所にしたいと考えています。（※平成20・21年度川崎市立図書館協議会答申『川崎としての特色のある図書館のあり方について』を市立図書館のホームページや各館でご覧ください。）</p> <p>本だけではなく、川崎ゆかりの版画や昔の地図等も活用していく予定です。また、川崎市立図書館では初めて専用の展示スペースを設け、読書のまち、科学のまちなどのコーナーとも関連する、多彩な展示活動をおこなっていきます。時事のテーマ展示、市内の企業、団体、公的機関等との連携による展示、情報提供など幅広く進めていきたいと考えています。</p> <p>通常の本棚につきましても、展示や情報提供が可能となるような仕組みをもうけていきます。また、現在は本の背表紙しか見えない本の並べ方になっていますが、一部については本の表紙が見えるような並べ方に変えるなど、利用者の皆さまと本や情報との距離を縮め、多面的に興味を持っていただけるような工夫をしていきたいと考えています。</p>

Q12	<p>新中原図書館は川崎市で一番大きな図書館となりますが、他の川崎市立図書館や学校図書館との関係はどのようなのでしょうか。</p>
A12	<p>図書館への市民ニーズの高まりにこたえるため、新中原図書館では、他の川崎市立図書館や学校図書館に対して、「中央図書館的機能」をもつ市立図書館の中軸・拠点として、また、「読書のまち・かわさき」の拠点として、市民全体の読書や学習、資料や情報による課題解決について、これまで以上に推進力を強めていくことが求められています。</p> <p>そこで、他の図書館や学校図書館、関係セクション等と、より密接な協力体制をつくり、必要な会議やプロジェクト等を主宰していきます。川崎市立図書館全体の運営計画や企画、資料や情報の整備、資料・情報の提供や相談事業のほか、読書・学習にかかわる市民活動支援、広報・広聴、コンピュータ・ネットワークシステム、物流体制、国・県や他都市の図書館等との連携、市立小中学校・大学・企業・行政機関等との連携などに取り組み、市立図書館全体の運営・サービスの向上に貢献していきたいと考えています。</p> <p>たとえば、資料・情報の整備や提供では、学習指導要領の改定にあわせて全市小学校を対象とする授業支援専用図書セットを新設します。地域、市立図書館、学校でのおはなし会や学校図書館運営のボランティア活動に支援するための専用図書を新設します。これらの専用図書は市立図書館経由で提供しますので、新中原図書館開館と同時に、図書館巡回車を1台から2台に増強していく予定です。また、初めて新中原図書館内に設置される団体貸出コーナーも役立つと考えています。</p> <p>ニーズの高い音楽の資料提供については、これまで川崎図書館と多摩図書館が所蔵してきたCDを新中原図書館でも所蔵するほか、将来的にはインターネットによる音楽配信も実現していきたいと考えています。</p>

Q13	<p>多目的室やボランティア室とはどのような部屋ですか？ 利用の仕方はどのようになりますか？</p>
A13	<p>多目的室は、6階部分に設けられる部屋で、川崎市立図書館では初めての設置となります。50人ほどが着席できる部屋で、2つに仕切って使うこともできます。音響設備やプロジェクターをそなえ、読書に関する講座、講演、講習などの開催のほか、学校から児童・生徒がクラス単位で来館して、図書館の使い方のガイダンスを受けたりするなど、図書館関係の事業で多目的につかっていきます。</p> <p>ボランティア室は川崎市立図書館の運営や事業をサポートして下さる全市のボランティアの方々を対象とし、その活動に必要な場所の提供を行う部屋です。また、保育を必要とする図書館関係のイベント等を開くときに、この部屋で保育もおこなえるようにしたいと考えています。新中原図書館にあらかじめ登録していただいた団体を対象に、事前申込制で運営していく予定ですが、こまかな使い方は検討中です。</p> <p>ただし、多目的室、ボランティア室とも一般的な貸出や個人利用はおこなえません。</p>

4 おわりに

今任期は、川崎市立図書館全体の現状と、とりわけ新中原図書館に関して協議研究を進めてきたところである。しかし、課題は多くあり、課題の一部にしかふれることができなかつた。次期の協議会に、以下の事柄の内、優先して幾つかを検討することを期待するものである。

(1) 新図書館のコンセプトにしめされた6項目の内容の検討と実現性

今期研究課題とした新中原図書館が平成25年春に開館する。新中原図書館のコンセプトとして6つのサービス・事業が示されている。これらについて検討・評価する必要がある。時期的には次々期の協議会の課題となると思われる。

(2) 学校及び学校図書館との連携あるいは支援について

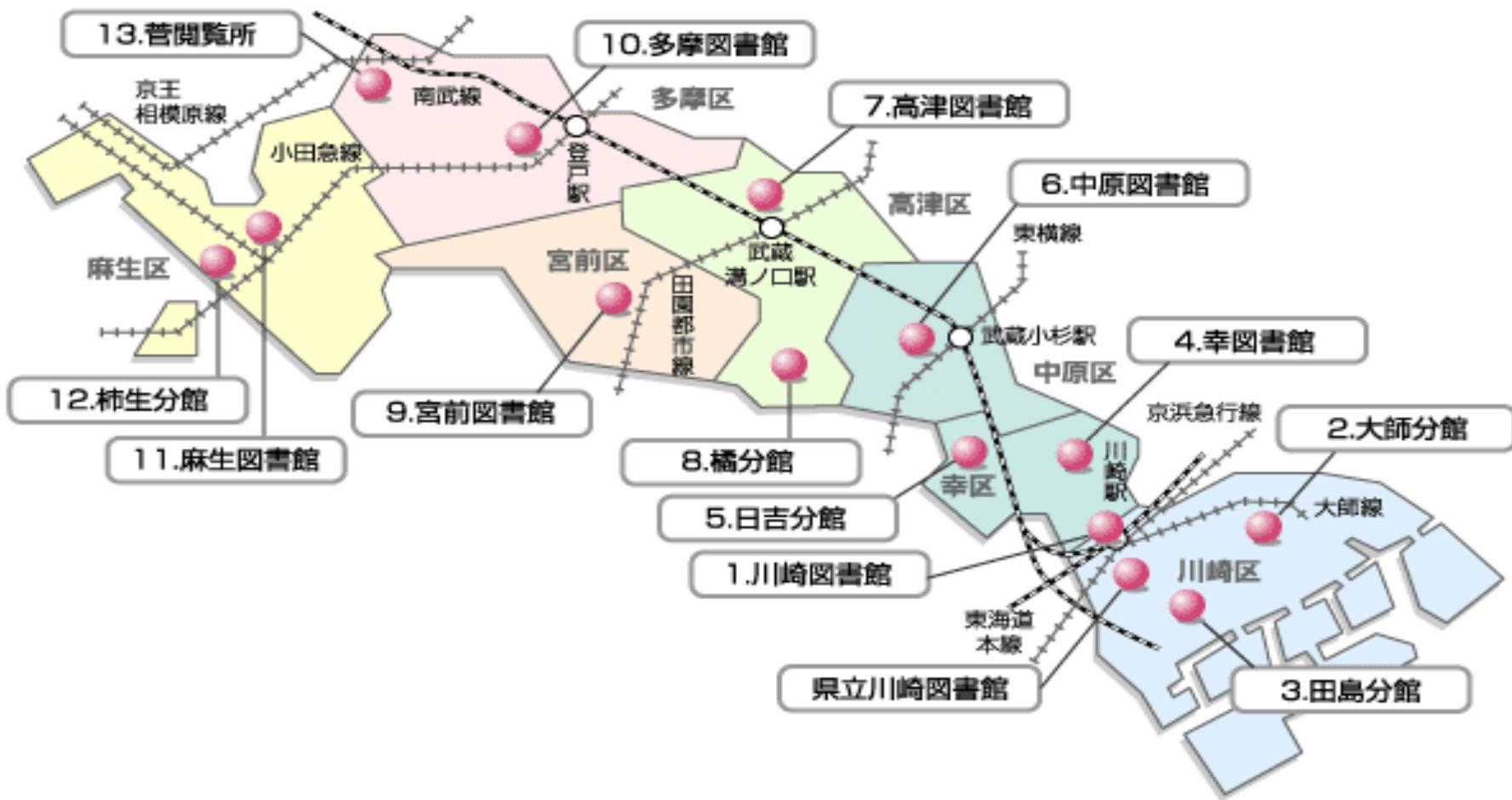
川崎市では平成14年に「学校と市立図書館の連携に関する要綱」を定め、学校及び学校図書館と市立図書館の連携につとめてきたところである。学習指導要領が改訂され、今まで以上に図書及び図書館の活用が重要視されるようになった。今後の川崎市での学校及び学校図書館と市立図書館の連携、また市立図書館による学校及び学校図書館の支援のあり方を検討する必要がある。

(3) 川崎市が策定した「子どもの読書推進計画(第2次)」にかかわる図書館の役割と事業について

川崎市では、平成23年4月「子どもの読書推進計画(第2次)」が策定され、読書のまち・かわさきの実現につとめているところである。市立図書館については、「計画」の「2 地域における子どもの読書活動の推進と具体的方策」の「(1) 市立図書館における子どもの読書活動推進と具体的方策」に市立図書館の役割についての考え方と具体的な推進事業が示されている。これらの実施状況の調査・検討とさらなる充実について研究を深める必要がある。

以上である。

なお、川崎市立図書館は、他都市同規模の図書館と比較すると人員面、それにかかわる経費面で非常に効率的な運営がなされている。これは高く評価することができる。ただ、今後の環境変化が激しいことを考えると、新しい市民の期待に応えるためには一定に人員の確保と専門職としての養成が必要であるということも申し添えておきたい。



参考資料(1)川崎市立図書館マップ

参考資料（２）川崎市立図書館の施設一覧

川崎図書館

J R川崎駅の北隣り、リパークビルの4階。外国語（特にハングル、中国語）の資料が豊富。CD受入館。



所在地	〒210-0007 川崎区駅前本町12-1 タワー・リパーク4F
開設	平成7年4月
延床面積	1,179㎡
蔵書数	18万1千冊
閲覧席	28席
Tel	044-200-7011

大師分館

京急大師線川崎大師駅から5分。教育文化会館大師分館と併設。（プラザ大師）



所在地	〒210-0802 川崎区大師駅前1-1-5 川崎大師パークホームズ
開設	平成7年11月
延床面積	265㎡
蔵書数	5万1千冊
閲覧席	10席
Tel	044-266-3550



田島分館

大島3丁目バス停下車、カルナーザの4階。教育文化会館田島分館と併設。（プラザ田島）

所在地	〒210-0835 川崎区追分町16-1 カルナーザ川崎4F
開設	平成4年10月
延床面積	203㎡
蔵書数	4万6千冊
閲覧席	12席
Tel	044-333-9120



幸図書館

区行政センターの一角、幸文化センターの1階。落ち着いた雰囲気図書館。

所在地	〒212-0023 幸区戸手本町1-1-2
開設	昭和55年7月
延床面積	873㎡
蔵書数	16万6千冊
閲覧席	53席
Tel	044-541-3915



日吉分館

夢見ヶ崎動物公園前バス停下車、日吉合同庁舎の3階。幸市民館日吉分館と併設。

所在地	〒212-0055 幸区南加瀬1-7-17
開設	平成15年7月
延床面積	245㎡
蔵書数	3万6千冊
閲覧席	13席
Tel	044-587-1491

中原図書館

J R南武線・東急東横線 武蔵小杉駅から4分。川崎市立図書館のまとめ館。地域資料室、レファレンス室が充実。



所在地	〒211-0063 中原区小杉町3-4-17
開設	昭和35年4月
延床面積	2,419㎡
蔵書数	32万6千冊
閲覧席	143席
Tel	044-722-4932



高津図書館

東急田園都市線高津駅から5分。旧大山街道沿い公園の一角。児童図書が豊富。

所在地	〒213-0001 高津区溝口4-16-3
開設	昭和63年3月
延床面積	2,196㎡
蔵書数	25万9千冊
閲覧席	132席
Tel	044-822-2413

橘分館

近年宅地開発の進む地域。高津市民館橘分館との併設（プラザ橘）。



所在地	〒213-0026 高津区久末2012-1
開設	平成5年10月
延床面積	247㎡
蔵書数	4万2千冊
閲覧席	15席
Tel	044-788-1531

宮前図書館

東急田園都市線宮前平駅から10分。区行政センターの一角、宮前文化センターの2階。自動車文庫の拠点。



所在地	〒216-0006 宮前区宮前平2-20-4
開設	昭和60年7月
延床面積	1,448㎡
蔵書数	26万1千冊
閲覧席	88席
Tel	044-888-3918

多摩図書館

小田急線向ヶ丘遊園駅から5分。多摩区役所などがある巨大な区行政センタービルの地下1階。CD受入館。



所在地	〒214-8570 多摩区登戸1775-1
開設	平成9年1月
延床面積	1,725㎡
蔵書数	26万2千冊
閲覧席	83席
Tel	044-935-3400

菅閲覧所

JR 稲田堤、京王線稲田堤駅から7分。K・Tプラサの3、4階。閲覧室が充実。開館は火～日曜午前10時～午後5時、毎週月曜・祝日等休



所在地	〒214-0001 多摩区菅3-1-1 K・Tプラサ3,4F
開設	平成5年9月
延床面積	348㎡
蔵書数	3万5千冊
閲覧席	46席
Tel	044-946-3271



麻生図書館

小田急線新百合ヶ丘駅から5分。区行政センター内、麻生文化センターの1、2階。神奈川県建築賞を受賞。

所在地	〒215-0004 麻生区万福寺1-5-2
開設	昭和60年7月
延床面積	1,346㎡
蔵書数	21万1千冊
閲覧席	74席
Tel	044-951-1305

柿生分館

小田急線柿生駅から5分。柿生小学校内にある。学校図書室と併設。市内で初めての学校との複合施設。



所在地	〒215-0023 麻生区片平3-3-1
開設	平成15年6月
延床面積	391㎡（学校図書室分を含む）
蔵書数	3万9千冊
閲覧席	44席（学校図書室分を含む）
Tel	044-986-6470

参考資料(3) 新中原図書館
パブリックコメント資料(部分)

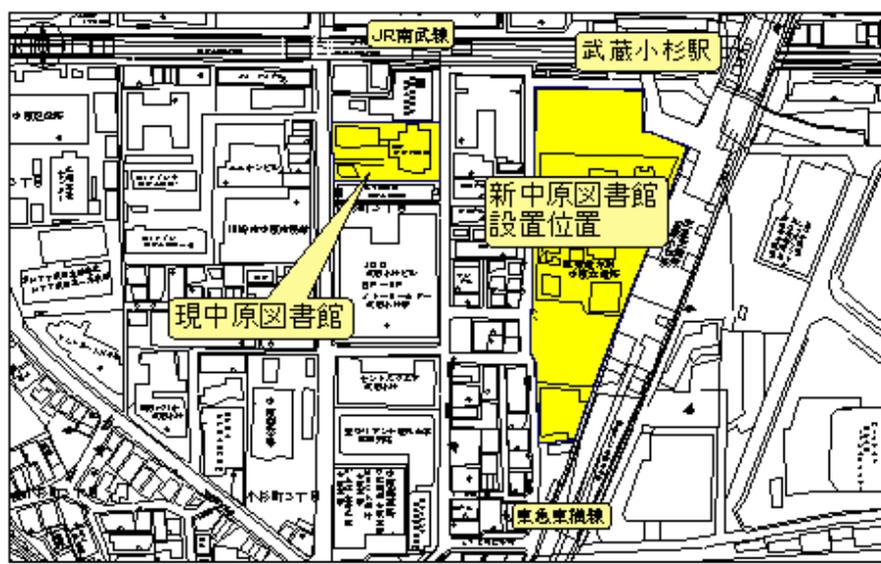
平成 22 年 2 月-3 月実施

新中原図書館の整備概要について

1. 中原図書館について

現在小杉町 3 丁目に設置している中原図書館については、小杉駅周辺地区の拠点整備にあわせ、武蔵小杉駅南口地区西街区において再整備を進めており、平成 24 年度に移転・開館する予定です。

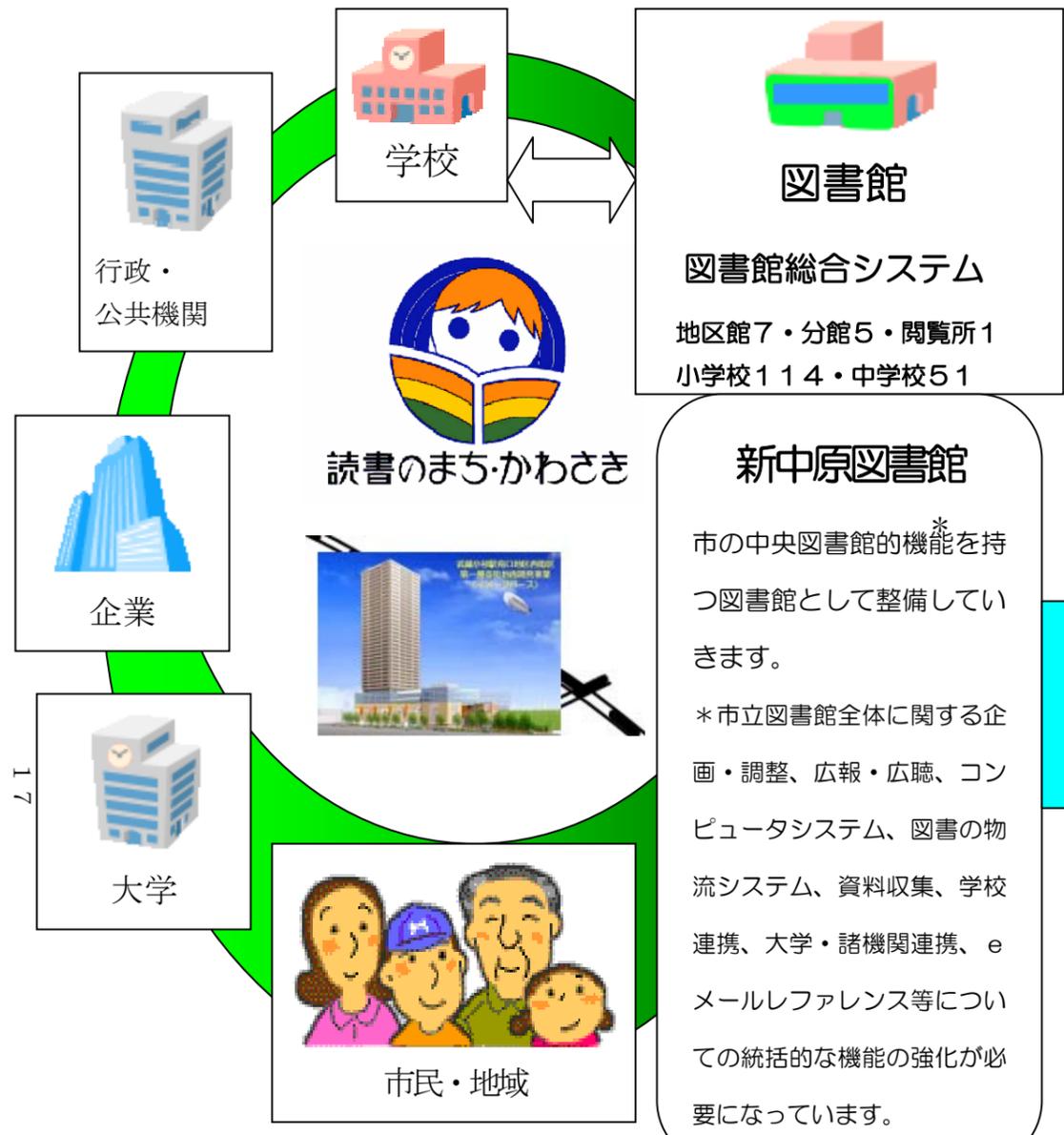
2. 施設の位置（地図）



3. 施設の概要

名称	川崎市立中原図書館	
(現所在地)	川崎市中原区小杉町 3 丁目 262 番地 1	
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造 地上 37 階建て地下 3 階建てビルの内、2フロア	
延床面積	約 4,500㎡	
開館予定	平成 24 年度末	
蔵書数	一般開架	90,000~110,000冊
	児童・ヤングアダルト	30,000~45,000冊
	閉架(自動書庫)	280,000~300,000冊
閲覧席数	200~240席	

新中原図書館のコンセプト ～ “読書のまち” の新たな展開～



コンセプト

ターミナル駅のアクセスの良さを最大限活用

①好アクセスのビジネスマンのオアシス

- 通勤・通学帰りの知的リフレッシュサービス
- 開館時間の延長
- ビジネスマン・ビジネス支援の充実

市民活動・生涯学習活動の継続的発展

②市民活動・生涯学習活動の支援

- 資料・情報をつうじた地域市民活動の拡充
- 生涯をつうじて学び成長する場

あらゆる世代、多様なライフスタイルへの対応

③誰もが使いやすい図書館

- 子育て支援からシニア活動までの場
- 親子で楽しめる
- 障害者、外国人、だれでも使いやすく、快適

アクセスフリーとハイブリッド化(紙媒体と電子媒体)の推進

④ハイブリッド図書館

- インターネット時代としての時間と空間の制約をこえた全市・24時間サービスの展開
- 従来からの本や、電子データベース等とインターネットによる高度な情報提供

「読書のまち・かわさき」の拠点づくり

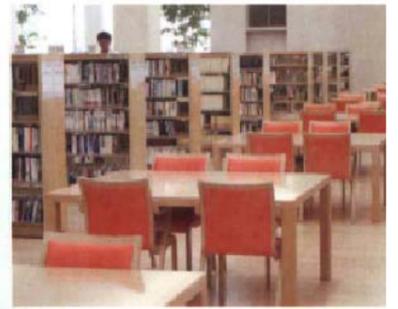
⑤市民・地域・学校・大学・企業との協働

- 「読書のまち・かわさき」事業の積極的な推進(学校図書館との連携、読書ボランティア推進など)

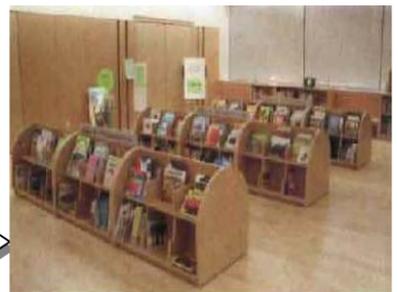
質量両面での飛躍的な利用拡大

⑥効率的で利便性の高い図書館

- 自動書庫・自動貸出機等IT化の推進による効率化・省力化・省スペース化の推進と市民サービスの向上



閲覧席



児童図書コーナー



自動貸出機



自動書庫

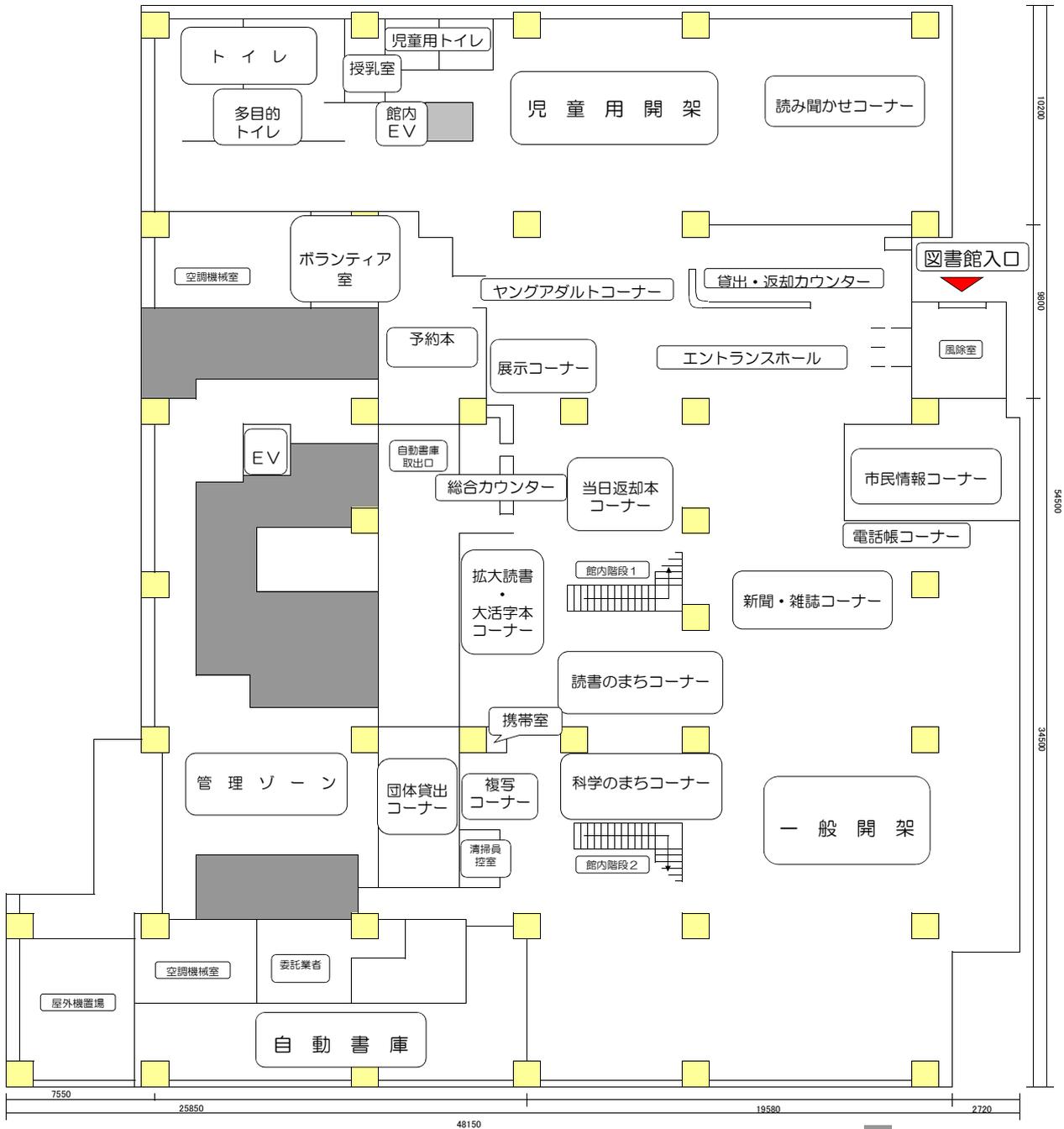
新総合計画・教育プランに基づく5つの拠点

- 1 あらゆる世代の人々が生涯をつうじて学び、活動し、成長する拠点
- 2 「読書のまち・かわさき」の新たな展開の拠点
- 3 武蔵小杉駅再開発を中心とする発展する中原区の拠点
- 4 市民の仕事や生活、地域の課題解決に役立つ資料・情報の拠点
- 5 中央図書館的機能となる川崎市立図書館の中軸・拠点

新中原図書館のイメージ

5 階

各カウンターなど	貸出・返却カウンター	図書館に入ってすぐに貸出・返却カウンターがあります。自動貸出機もありますが、対面での貸出も可能です。
	総合カウンター	利用者登録、予約・リクエストの受付、各種調べ物のお問合せを受けます。
	OPAC (利用者用検索機)	フロア内各所にOPACの設置を予定しています。
	自動貸出機	セルフサービスで貸し出し手続きが出来ます。フロア内各所に設置を予定しています。
	複写コーナー	
一般開架コーナー	一般開架	5万～7万冊を目標とします。
	新聞・雑誌コーナー	400～500タイトルを目標とします。
	電話帳コーナー	全国の電話帳を置きます。
	ヤングアダルトコーナー	中高生向けのコーナー。約5千冊を目標とします。
	当日返却本コーナー	
	読書のまちコーナー	「読書のまち・かわさき」の推進拠点として情報発信します。
	科学のまちコーナー	科学技術関係の企業・機関等と協力して情報発信等のサービスを展開します。
	予約本コーナー	予約した本について早く簡単に貸し出しを受けられる便利なセルフサービスコーナーです。
	拡大読書・ 大活字本コーナー	高齢者や目の不自由な方のための大活字本と拡大読書機を設置します。
児童用開架コーナー	児童用開架	約3万～4万冊を目標とします。
	読み聞かせコーナー	ボランティア・職員等による読み聞かせを行います。普段は親子で使えます。
	授乳室・児童用トイレ	児童用開架コーナーに隣接しています。
その他の施設	エントランスホール	吹抜けのホールとなっています。
	展示コーナー	川崎市立図書館に関する企画の展示
	市民情報コーナー	各種チラシ・パンフレットの掲示。飲食も出来ます。
	ボランティア室	ボランティア活動の推進のための部屋
	自動書庫	コンピュータによる図書の自動管理・出納
	閲覧席	一般開架・児童開架等2フロアで200～240席を目標に設置します。
	携帯電話コーナー	携帯電話の通話用コーナー。
	返却ポスト	図書館入口と1階に設置予定
	多目的トイレ	上・下階両方に設置
	館内エレベーター	上階と下階を繋ぎます。
	館内階段	上階と下階を繋ぎます。

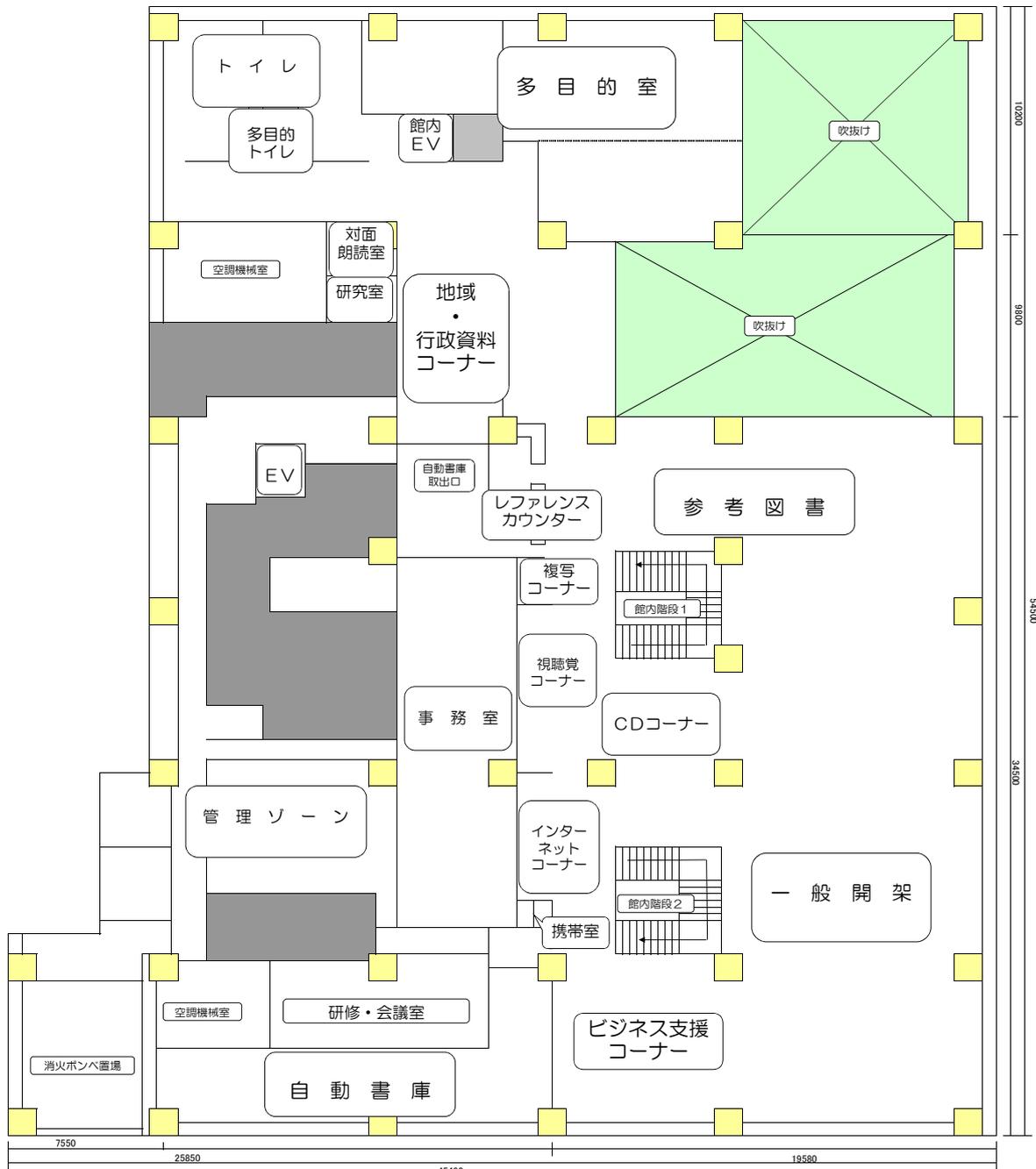


5階のイメージ

新中原図書館のイメージ

6 階

各カウンターなど	レファレンスカウンター	各種調べ物のお問い合わせを受けます。
	OPAC (利用者用検索機)	フロア内各所にOPACを設置の予定です。
	自動貸出機	セルフサービスで貸し出し手続きが出来ます。フロア内各所にを予定しています。
	複写コーナー	
一般開架コーナー	参考図書コーナー	館内閲覧用参考図書等
	一般開架	約4万冊程度を目標とします。
	地域・行政資料コーナー	本市の郷土資料や行政資料等
	ビジネス支援コーナー	ビジネスマンの役に立つ資料・情報を収集します。
	CDコーナー	音楽、朗読等のCD8000~10,000点を目標とします。
開架コーナー内各施設	対面朗読室	ボランティアによる対面朗読サービスを行います。
	研究室	調査・研究を行う方のための部屋
	視聴覚コーナー	館内でCD等の試聴が出来ます。
	インターネット情報コーナー	インターネットを利用して調べ物や情報収集を行えます。
その他の施設	多目的室	講演会や大規模な読み聞かせの会場や学校の学級単位での調べ物などに使用。2部屋に区切った使用も可能。
	自動書庫	コンピュータによる図書の自動管理・出納
	閲覧席	一般開架・児童開架等2フロアで200~240席を目標に設置します。
	携帯電話コーナー	携帯電話の通話用コーナー。
	多目的トイレ	上・下階両方に設置
	館内エレベーター	上階と下階を繋ぎます。
	館内階段	上階と下階を繋ぎます。



■・・・共有部分(面積外)

6階のイメージ

平成 22・23 年度審議経過

年 月 日	会 議 名	会 場	主 な 内 容
平成 22 年 6 月 30 日	平成 22 年度 第 1 回協議会	川崎市中原市民館 会議室	1 委嘱状交付 2 会長・副会長の選任 3 川崎市立図書館の現状について 4 図書館協議会のこれからの活動について
平成 22 年 9 月 27 日	第 2 回協議会	川崎市中原市民館 会議室	1 報告事項 2 川崎市立図書館の現状についての研究・協議
平成 22 年 12 月 6 日	第 3 回協議会	高津図書館 展示室	1 報告事項 2 川崎市立図書館の現状についての研究・協議
平成 23 年 3 月 4 日	第 4 回協議会	川崎市多摩市民館 会議室	1 報告事項 2 川崎市立図書館の現状についての研究・協議 3 これからの進め方について
平成 23 年 6 月 27 日	平成 23 年度 第 1 回協議会	川崎市宮前市民館 会議室	1 委嘱状交付 2 報告事項 3 これからの図書館協議会の進め方について
平成 23 年 9 月 28 日	第 2 回協議会	中原図書館 会議室	1 報告事項 2 新中原図書館の整備等について 3 これからの進め方について協議
平成 23 年 12 月 14 日	第 3 回協議会	中原図書館 会議室	1 報告事項 2 平成 22・23 年度川崎市立図書館協議会報告書の作成について
平成 23 年 12 月 28 日	編集打合わせ	中原図書館 会議室	1 平成 22・23 年度研究活動報告書編集方針打ち合わせ
平成 24 年 1 月 19 日	編集小委員会	中原図書館 会議室	1 報告事項 2 平成 22・23 年度川崎市立図書館協議会の研究活動報告書編集作業
平成 24 年 3 月 6 日	第 4 回協議会	中原図書館 会議室	1 報告事項 2 平成 22・23 年度川崎市立図書館協議会の研究活動報告書まとめ

平成 22・23 年度川崎市立図書館協議会委員名簿

氏 名	役 職 名	備 考
栗 田 博 美	川崎市立岡上小学校長	平成 23 年 5 月 31 日まで
石 堂 真理子	川崎市立住吉小学校長	平成 23 年 6 月 1 日から
高 野 茂	川崎市立平中学校長	
川 崎 眞喜子	川崎市 P T A 連絡協議会理事	
堀 井 岳 洲	川崎市総合文化団体連絡会理事	
渡 邊 由紀江	麻生区小学校図書ボランティア 勉強会	
渡 辺 功	市民委員	
津 脇 梅 子	市民委員	
長 島 保 ○	かわさき市民アカデミー前副学 長	
大 串 夏 身 ◎	昭和女子大学大学院 生活機構 研究科・人間社会学部教授	
荻 原 幸 子	専修大学文学部教授	

◎会長 ○副会長

[任期 平成 22 年(2010 年)6 月 1 日～平成 24 年(2012 年)5 月 31 日]

※市民委員の岩田みやび委員(平成 22 年(2010 年)6 月 1 日～29 日)が着任前に退職されたため、後任の津脇委員のみ任期が平成 22 年(2010 年)6 月 30 日～平成 24 年(2012 年)5 月 31 日)

平成 22・23 年度
川崎市立図書館協議会研究活動報告書
—新中原図書館の整備について—
平成 24 年（2012 年）5 月 31 日

編集 川崎市立図書館協議会
発行 川崎市立図書館（中原図書館）
TEL 044-722-4932